

【公報種別】特許法第17条の2の規定による補正の掲載

【部門区分】第3部門第2区分

【発行日】令和2年2月6日(2020.2.6)

【公表番号】特表2018-538343(P2018-538343A)

【公表日】平成30年12月27日(2018.12.27)

【年通号数】公開・登録公報2018-050

【出願番号】特願2018-532777(P2018-532777)

【国際特許分類】

A 6 1 K 35/18 (2015.01)

A 6 1 P 35/00 (2006.01)

A 6 1 P 31/00 (2006.01)

A 6 1 P 43/00 (2006.01)

A 6 1 P 37/06 (2006.01)

A 6 1 P 29/00 (2006.01)

A 6 1 P 37/02 (2006.01)

C 1 2 N 5/078 (2010.01)

【F I】

A 6 1 K 35/18 Z

A 6 1 P 35/00

A 6 1 P 31/00

A 6 1 P 43/00 1 0 1

A 6 1 P 37/06

A 6 1 P 29/00

A 6 1 P 37/02

A 6 1 P 43/00 1 1 1

A 6 1 P 43/00 1 0 5

C 1 2 N 5/078

【手続補正書】

【提出日】令和1年12月16日(2019.12.16)

【手続補正1】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0338

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0338】

93. 前記方法を、組織損傷、癌、炎症性疾患若しくは状態、及び/又は免疫障害の治療の補助療法として使用する、例92記載の方法。

本件出願は、以下の構成の発明を提供する。

(構成1)

対象における少なくとも1つのタンパク質のレベルを調節するための方法であって：

a.) 赤血球を、1以上の赤血球タンパク質のレベルを調節する少なくとも1つの薬剤又は少なくとも1つの条件と接触させることにより、刺激された赤血球を作製すること；並びに

b.) 該対象に：

(i) 該刺激された赤血球；

(ii) 該刺激された赤血球のインキュベーション又は培養物から取得した上清；

(iii) 該刺激された赤血球から取得した溶解物；

(iv) 該刺激された赤血球から取得した膜；及び

(v) 該刺激された赤血球から作製した赤血球ゴースト、からなる群から選択される、1以上の刺激された赤血球構成要素を投与すること、を含み、ここで該対象に該1以上の刺激された赤血球構成要素を投与することにより、該対象における少なくとも1つのタンパク質のレベルが調節される、前記方法。

(構成2)

前記赤血球を、前記対象から取得する、構成1記載の方法。

(構成3)

前記赤血球を、前記対象からは取得しない、構成1記載の方法。

(構成4)

前記少なくとも1つの薬剤が、タンパク質、酵素、核酸、プロテアーゼ阻害剤、タンパク質変性剤、RNA安定化剤、抗凝固剤、及び細胞からなる群から選択される1以上の薬剤である、構成1～3のいずれか1項記載の方法。

(構成5)

前記少なくとも1つの条件が、剪断応力、低酸素、又は酸素過剰である、構成1～3のいずれか1項記載の方法。

(構成6)

前記対象が、ヒト又は非ヒト哺乳動物である、構成1～5のいずれか1項記載の方法。

(構成7)

前記1以上の刺激された赤血球構成要素を、全身、局所、静脈内、皮下、関節内、筋肉内、くも膜下腔内、及び腹腔内からなる群から選択される1以上の方法を通じて前記対象に投与する、構成1～6のいずれか1項記載の方法。

(構成8)

前記1以上の赤血球タンパク質が、サイトカイン、ケモカイン、又は成長因子である、構成1～7のいずれか1項記載の方法。

(構成9)

標的細胞の活動を調節する方法であって：

a.) 赤血球を、1以上の赤血球タンパク質のレベルを調節する少なくとも1つの薬剤又は条件と接触させることにより、刺激された赤血球を作製すること；並びに

b.) 該標的細胞を：

(i) 該刺激された赤血球；

(ii) 該刺激された赤血球をインキュベートし、又は培養することから取得した上清；

(iii) 該刺激された赤血球から取得した溶解物；

(iv) 該刺激された赤血球から取得した膜；及び

(v) 該刺激された赤血球から作製した赤血球ゴースト、からなる群から選択される、1以上の刺激された赤血球構成要素と混合すること、を含み、ここで該標的細胞を該1以上の刺激された赤血球構成要素と混合することにより、該標的細胞の活動が調節される、前記方法。

(構成10)

前記刺激された赤血球により、細胞シグナル伝達、免疫反応、細胞発達、細胞成長、細胞死、細胞成長阻害、及び細胞修復からなる群から選択される、前記標的細胞の1以上の活動が調節される、構成9記載の方法。

(構成11)

前記標的細胞が、免疫細胞、不死化細胞、癌細胞、幹細胞、内皮細胞、線維芽細胞、及び滑液細胞からなる群から選択されるものの1以上である、構成10記載の方法。

(構成12)

前記標的細胞が対象由来である、構成9～11のいずれか1項記載の方法。

(構成13)

前記標的細胞が、対象の内にある、構成9～11のいずれか1項記載の方法。

(構成14)

前記標的細胞を対象に投与する、構成9～12のいずれか1項記載の方法。

(構成15)

標的細胞、標的細胞ゴースト、標的細胞膜、標的細胞溶解物、標的細胞画分、及び標的細胞をインキュベートし、又は培養することにより作製した上清からなる群から選択される、1以上の標的細胞構成要素を対象に投与する、構成14記載の方法。

(構成16)

前記刺激された赤血球、刺激された赤血球構成要素、標的細胞、又は標的細胞構成要素のうちの1以上を、前記対象に、全身、局所、静脈内、皮下、関節内、筋肉内、くも膜下腔内、及び腹腔内からなる群から選択される1以上の経路により投与する、構成9～15のいずれか1項記載の方法。

(構成17)

前記対象が疾患又は障害を有する、構成9～15のいずれか1項記載の方法。

(構成18)

疾患又は障害を予防し、治療し、又は改善する方法であって、それを必要とする対象に構成1～17のうちの1以上に従って作製した赤血球及び/又は標的細胞を投与することを含む、前記方法。

(構成19)

前記赤血球及び/又は標的細胞を前記対象に、全身、局所、静脈内、皮下、関節内、筋肉内、くも膜下腔内、及び腹腔内からなる群から選択される1以上の経路によって投与する、構成18記載の方法。

(構成20)

前記対象が、ヒト又は非ヒト哺乳動物である、構成18記載の方法。

(構成21)

前記疾患又は障害が、癌、感染症、臓器不全、自己免疫性疾患、自己免疫性障害、炎症、及び免疫不全からなる群から選択される、構成18記載の方法。